

## 奈良県観光の重要課題：「季節変動の平準化」と「観光地点の多様化」

### ■観光入込客数：繁閑の差が非常に大きい

奈良県観光の課題は「日帰り観光の多さ」だけではない。奈良県の観光入込客数（日本人・観光目的）は春・秋が多いという印象であるが、統計上の結果は異なる。奈良県の観光入込客の季節毎の構成比は、2014年1-3月期が35.0%で39都道府県（平均24.9%）中1位。一方、全国的に最も多い7-9月期（同27.0%）は奈良県が20.1%で39位。

月別観光入込客数をみると、初詣客を含む1月が約630万人（全体の16.5%）で最多。但し、1月の宿泊者数は約11万人で、8月の4割程度と少ない。2月・3月・7月・12月は約200万人で1月の1/3の水準に留まり、繁閑の差が非常に大きい。

### ■奈良県観光は「歴史・文化」に偏重？

観光入込客数は観光地点<sup>(\*)</sup>や行祭事・イベントの訪問者数を把握して推計する。

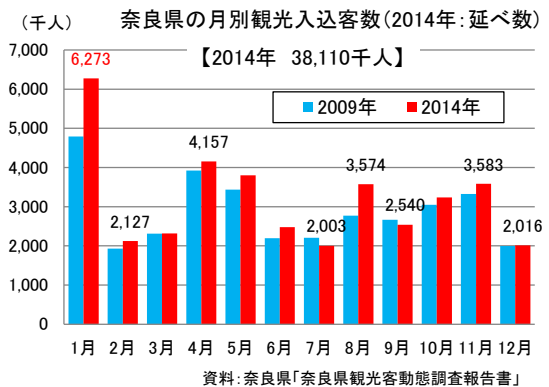
観光地点に関する奈良県の特徴を見ると、①他県と比べて観光地点（195地点）が少ない〔滋賀県254地点、兵庫県942地点〕。②観光地点のタイプが「歴史・文化」（37.4%）に偏っている〔観光入込客数は6割を占める〕。③「行祭事・イベント」（全体の2割）の件数は比較的多いが、観光入込客数（同1割）は少ない。④「スポーツ・レクリエーション」「都市型観光<sup>(\*)</sup>」は観光地点・観光入込客数とも非常に少ない。

全国的な傾向として観光地点が多く、同タイプがバランスよく構成されている県は、観光入込客数も多く、季節変動も比較的小さい。

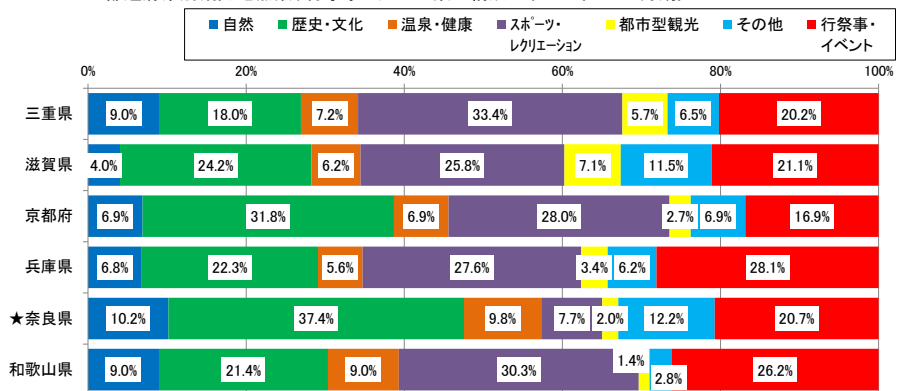
奈良県においては、歴史・文化

の観光地点や行祭事等を大切にしながらも、新しい観光地点の発掘・増大や同タイプの多様化などにより観光ニーズの変化に対応していくことが、観光入込客数の増大及び季節変動の平準化にも寄与すると考える。（島田清彦）

\*1：非日常利用が多い、前年の観光入込客数が年間1万人以上（若しくは特定月5千人以上）などの条件で抽出。  
\*2：商業施設や地区・商店街の朝市・市場等、農水産品等の直売所、物産館等、道の駅、パーキングエリア等。



都道府県別観光地点数、行祭事・イベント数の構成比(2014年10-12月期)



都道府県別観光地点・行祭事・イベント別の観光入込客数(延べ数)の構成比(2014年)

